

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話: 044-988-0004(柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>
 第68号



あけましておめでとうございます
 今年もよろしくお願ひ申し上げます
 今年の干支(えと)は甲午(きのえうま)・・・どんな年？



今年の「干支(えと)」は、十干(じっかん: 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)・十二支(じゅうにし: 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)からいうと甲午(きのえうま)という年になります。60年に1回やってくる干支の「甲午」は歴史上どんな年であったのでしょうか。少し歴史年表で調べてみました。

- * 1834年(天保5年)は「江戸名所図会」が出版され、安藤広重の「東海道五十三次」が完成しました。一方、天保の飢饉が発生して全国的に餓死者が多く、各藩では一揆や打ちこわしが頻発しました。
- * 1894年(明治27年)は、幕末に欧米5カ国と締結した修好通商条約の治外法権の撤廃がイギリスとの間に実現しました。全国的にペストが大流行、8月に日清戦争が勃発、10月には秋田・山形大地震が発生しました。
- * 1954年(昭和29年)3月マグロ漁船第五福竜丸が太平洋ビキニ環礁で23名被爆。9月津軽海峡で台風のため洞爺丸が沈没し、1,155名の犠牲者が出ました。

いつの時代も飢饉・台風・疫病など自然災害が多いようですね。今年は、果たしてどんな年になるのでしょうか。穏やかな一年となることを心より祈ります。

◆外交と文化◆

昨年11月に、ケネディ元アメリカ大統領の長女キャロライン・ケネディ氏が駐日大使として着任しました。歓迎レセプションの挨拶で松尾芭蕉の俳句「道祖神の招きにあいて 取るものも手につかず」の一句を紹介されていました。

ご自分の日本着任に対する並々ならぬ思いを、あえて日本文化の代表の一つともいえる俳句の中から芭蕉の句を選び出し、この句を紹介されたのはさすがでした。彼女風に意識しますと『日本の庶民の神様である“道祖神”のお招きがあったので、踊る心を抑えられず、準備も十分できないまま日本にやってきました』となるのでしょうか。日本の民間信仰と、その背景にある日本人の”思い“を理解していないとなかなかこの句は出てきません。外交とは、まず相手国の文化をしっかりと理解することが肝要、ということになるのでしょうか。

太平洋戦争終結の前年1944年、アメリカの女性文化人類学者ルース・ベネディクト(写真右)は、アメリカ政府より敵国日本の研究委託を受け、著書「菊と刀」の執筆を始めました。この著作の凄いところは、作者自身に来日経験がないにもかかわらず、短い時間の中で日本の著書の綿密な研究や日本人移民からの徹底した聞き取り調査を行い、日本人の「行動様式」や「文化の型」の一端を見出したという点で、画期的なことであったと言えます。いずれにしても、この著作はアメリカの戦後日本統治の重要なキーワードになったことは間違いのないものだと考えられます。



外交上、相手国の人や文化を十分に知り、理解するという事は実に重要であるということの一例を紹介してみましょ。明治時代の初代内閣総理大臣の伊藤博文(写真左)は、いつも優秀な漢詩人を秘書のようにして常につれていました。この人物は名古屋出身の森槐南(もりかいはん)で、博識で中国語にもよく通じていました。伊藤博文が中国の要人と交渉する時などは、必ず一緒に連れて回ったそうです。ある時には伊藤博文が事前に森槐南の指導を受け、中国人に対して漢詩を披露することもあり、大いに賞賛されたそうです。このようなやり取りで伊藤博文は中国人からも一目置かれる存在になったそうです。森槐南は残念ながら伊藤博文が中国のハルピン駅で朝鮮の安重根に暗殺されたとき、共に銃弾を浴び、そのけががもとで1911年48歳で亡くなっています。伊藤博文は明治期の対中国外交で、中国文化の中でも重要な存在である漢詩を知り、理解し、実践することを、その外交の“ツボ”として考えていたようです。明治時代の政治家の外交センスもたいしたものですよ。

過去をいろいろと振り返ってみますと、外国の人々とうまくお付き合いしたいと思うとき、相手の国の文化をどれだけ理解しているかということが重要なポイントとなってきます。これは決して外交のことだけではなく、私たちの身近な人間関係についても、同じことが言えるのではないかと思います。まずは、相手の特性や考え方など、人物をよく理解することが大切であるということでしょうか。

(文:板倉)

シリーズ
「麻生の歴史を探る」 第38話

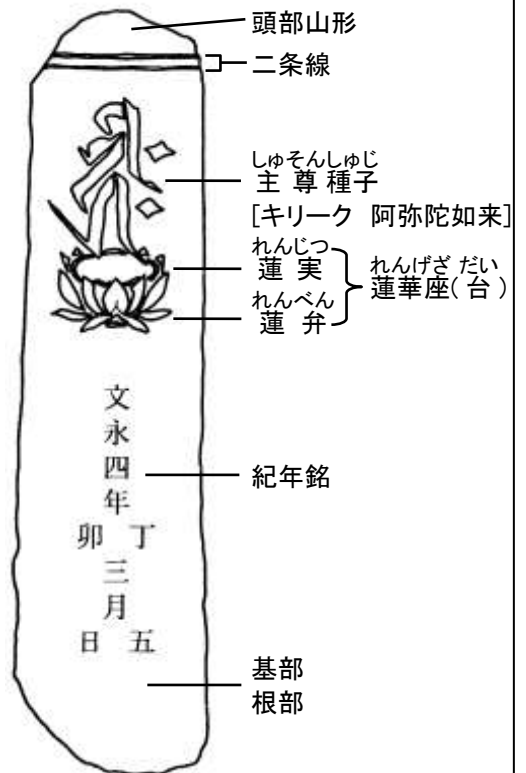
板碑 その1

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

荏田の眞福寺や高石の法雲寺に阿弥陀如来の尊像が今に残るのは、この地方の庶民(農民)の間に極楽浄土を願う阿弥陀信仰があったからで、そのことはこの地に多い板碑に見ることができ、その造立は鎌倉時代(1240年頃)から室町時代(1530年頃)までに及んでいます。

板碑とは通常“板ホトケ”とも呼ばれ、平たい緑泥片岩の頭部を三角に造成、二本の線を刻み、その下に阿弥陀如来を梵字で表し、さらにその下に造立年月、造立主、銘文を期した供養塔の一種です。当初武士や僧侶により造立されていたものが、室町時代には一般庶民にまで及びました。現在川崎市教委の調べでは市内には約800基が存在するといひ、宗教文化を知る上で貴重な文化財になっています。

岡上の梶睦子家には文永4年(1267)造立銘のある高さ140cm、幅30数cmほどのものが大切に保存されています。これは昭和15年に村の堀さらいの際、山田孝次さんと横田貞夫さんが発見したもので、場所は遺跡で知られる阿部ノ原に面する堀でした。ここは鎌倉街道早ノ道が通り、古刹東光院があります。姿がよく彫刻も鮮明で大型のものですが、残念なことに造立者の名、造立趣旨の銘文がありません。在地の鎌倉武士か東光院主の造立と考えられますが、阿部ノ原、古東光院の毘沙門天(1094)と併せ、岡上の歴史を探る資料となっています。



板碑の部位名称 (岡上 梶家所蔵)

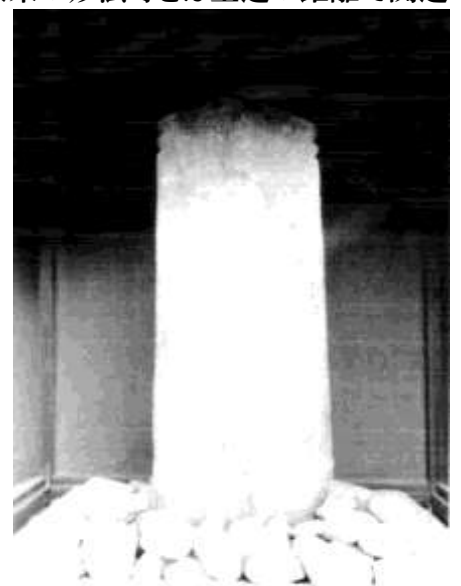


市内最古の板碑

市内最古の板碑は建長7年(1257)高津区久末の妙法寺山門前の古井戸から発見されたもので、現在は市重要文化財として市民ミュージアムに展示されています。惜しいことにこの碑は上部の仏を表す梵字や下部の銘文の一部が失われてはいるものの、それでも現存する部分は高さ60cm、幅40cm余もあり、元は高さ150cm余の大型板碑だったと推測されます。残された銘文には、「建長七年初秋 主君追善供養為 孟蘭盆建立」と記され、主君や造立者が誰なのか不明ですが、武蔵風土記稿には都筑郡山田村三宝寺の項に「平治の乱で戦死した源義朝の臣、鎌田兵衛正清の百回恩追善供養に、建長七年巳卯初秋日、寺主良範造立」を意味する記述があります。山田の三宝寺は現存しませんが、久末の妙法寺とは至近の距離で関連が期待され、この地の鎌倉時代を探る文化財です。

造立の銘がある高さ140cm、幅50cm、厚さ80cmの大型のものです。小屋が設けられていて、他にも建長7年(1255)銘の幅40cmほどの重量感のある板碑(下部が破損)が保存されています。この地にはその昔「念仏堂」と呼ぶ古祠があり、横浜市教委の調べではこれらの碑はそこから移されたものでした。

この岡には河原石を積んだ三つの小山が並び、その下部からは多くの瀬戸の蔵骨器が出土、阿弥陀如来の板碑と併せ、この地方の中世の信仰を解く重要な価値あるものとされています。そのことは前橋、鎌倉御家人鴨志田十郎はこの地を根拠とする地縁の武士であったこと、そしてこの鴨志田の地は阿弥陀如来尊像の荏田眞福寺の生活圏であることと無縁のものではないと思われます。



神奈川県最古の板碑

参考資料:「川崎市史」「新編武蔵風土記稿」「横浜市史」

シリーズ 黒船来航

開国秘話 (4)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆ペリー艦隊の通訳◆

日本を目指して大西洋に船出したペリーは、蒸気船の燃料である石炭の運搬船でもある2艘の帆船を目的地に先行させ、ケープタウンのテーブル湾での水と石炭の補給に当たらせました。アメリカの補給路はここまででした。

インド洋に入るとアメリカの補給路はありません。そこではイギリスの船会社の貯炭所から、水や石炭を購入するしかなかったのです。当然イギリス側はペリー艦隊の目的地を知っており、通常の2倍から3倍の高値での引き取りを迫り、消極的にペリー艦隊の日本訪問を妨害しようとしたのです。

イギリスが、自ら日本に出かけようとしなかったのは、この時期が太平天国の乱(1850年～64年)に重なり、しかもその最盛期にあっていたからでした。このためイギリスは、アメリカを追っての日本進出を諦めざるを得なかったのです。

石炭のみでなく、食糧や炊事用燃料の確保も大きな難題でした。肉類の冷蔵・冷凍装置など考えられない時代です。牛、羊、鶏などは艦内で飼育するしかなく、こうした食用動物の飼料も積み込む必要があったのです。

ペリー艦隊は地球の4分の3を航海して、137日後の西暦1853年4月7日に香港に到着しました。しかし、ペリーは先を急ぎ、すぐに船を広東に進めました。この地で通訳を確保する必要があったのです。外国との交渉には、優秀な通訳が欠かせません。その点で、通訳の確保は最重要課題でした。その通訳が米国西海岸を出航したペリーの艦隊には、1人も乗船していなかったのです。

通訳はどうしたのでしょうか。ペリーは出発前に、日本と何語で交渉するかを検討しました。最初に彼は英語で交渉する案を捨てました。日本人は英語を解さないと考え、門前払いされることを恐れたのです。

日本人官吏がオランダ語と中国語に通じているという情報は、東インド艦隊を通じて入っていました。しかしペリーは交渉を日本語で行なうことを考えたのです。かなり大胆な発想のできる人物であることがここから読み取れます。

それからペリーは、アメリカ人の中で最も日本語に通じた人物を探します。白羽の矢が立ったのが、41歳の宣教師ウィリアムズでした。中国での宣教に20年の経験を持つ人物でした。そのウィリアムズが当時広東で布教中と聞き、ペリーは香港から広東へと急いだのです。



ウィリアムズ 神奈川県立博物館蔵

ウィリアムズに会ったペリーは単刀直入に切り出しました。「君はアメリカ人の中で最高の日本通であり、日本語の分る人物である。我々に同行し、通訳の任に当たって欲しい」と。請われたウィリアムズは、困惑し頭を抱えました。彼の日本語は、日本人漂流民を先生として、10年ほど前にマカオで学んだものだったのです。

「通訳をするような自信はもてない」と、彼は語りました。漂流民の先生は、難破した廻船の乗組員だったので、先生自身が、十分な読み書きの訓練を受けていなかったのです。そういう先生から学んだ自分の日本語は、到底通訳の任に堪えない。こうウィリアムズは申し訳なさそうに語りました。

ペリーは大変驚き、困惑します。彼は中国語と日本語の違いを、そう大きなものとは考えていなかったのです。ウィリアムズの説明で、中国語と日本語の違いをようやく理解したペリーは、日本語での対日交渉を諦め、中国語かオランダ語で交渉する方針に切り替えます。

こうしてペリーは改めてウィリアムズに、中国語の通訳として同行することを求めたのです。ウィリアムズは快諾して、彼が推薦した羅森(らしん)と共に一行に加わりました。さらにペリーは、オランダ語の通訳も探し、上海で若いポトマンを雇い入れたのです。

ペリーはこうした準備の末に日本にやってきました。当時の日本の暦では6月3日、西暦では7月8日のことでした。

(続)



ケープタウン市街とテーブル湾

平安時代11世紀 何が合ったのか？ 鈴木氏の謎が少しずつ解けてきた

11月24日(日)、柿生郷土史料館でシンポジウム「麻生の氏族を語る～麻生の鈴木氏」をテーマに約100名の方が集まり、シンポジウムが開催されました。

当日は4名のパネラーに参加いただき、それぞれ各家で伝わる伝承や家紋、墓地、墓石、熊野信仰、屋号などあらゆる角度からお話を伺いました。

最後に、当日コーディネーターをやっていた小島一也氏が、まとめとして次のような総括をされました。

- ① 麻生の鈴木氏出自に関するキーワードは「家紋」「熊野信仰」「川」である。
- ② 昔から麻生に住む鈴木氏は、鶴見川、片平川の周辺にまとまっている。
(上麻生19家、万福寺10家、古沢7家)特に上麻生、五力田、古沢、万福寺に集中している。そしてその場所には、古くは熊野神社が存在した(現在は他の神社に合祀されてしまった)。近くの上三輪には平安前期、元慶元年(877)創建の熊野神社が存在している。
- ③ 今回集まられた20数名の鈴木氏の家紋は殆どが「さがり藤」(お一人だけ稲穂の紋=鈴木家の本家筋にあたる)で、熊野信仰の中心地である紀州藤白の出身ではないか。
- ④ 後三年の役(1083)の戦功で、紀州の鈴木氏は源義家より東国に所領を得た。鈴木三郎の弟、亀井六郎は麻生・栗木・府中・藤沢に所領を拝領、麻生に亀井城を造った。

今後さらに研究を続けていきたいテーマです。



コーディネーターとパネラーの方々



多数の方が参加された会場

かわさき文化財フォーラム2013 主催：川崎市教育委員会

テーマ：市民活動がつなぐ文化財を活かした魅力あるまちづくり

日時：1月11日(土) 13:00～16:00 会場：高津市民館大会議室(溝口ノクティ12階)

- ① 基調講演：塩見 寛氏(まちづくりコンサルタント)
- ② パネルディスカッションⅠ 活動団体の事例紹介
 - ・安藤 均氏(武蔵中原観光協会)～中原街道の歴史や安藤家長屋門を地域全体で守り伝える
 - ・石井よし子氏(里山フォーラム in 麻生)～里山を守り、大地と人とまちをつなげる交流を生む
 - ・久保倉良三氏/板倉敏郎氏(柿生郷土史料館支援委員)～地域で支える学校と連携した博物館の取り組み
- ③ パネルディスカッションⅡ 討論
 - ・コメンテーター：塩見寛氏、三浦卓也氏(マヌ都市建築研究所主席研究員)

柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日：奇数月は日曜日、偶数月は土曜日

1月 5・12・19・26日(毎日曜日) **2月** 1・8・15・22日(毎土曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

柿生郷土史料館1～2月の催物ご案内(入場無料)

第45回 カルチャー・セミナー

東柿生小学校遺跡発掘調査から分かる事

講師：新井 悟氏(市民ミュージアム学芸員)

日時：2月22日(土) 13:30～15:30

会場：柿生郷土史料館特別展示室

重要な建造物の存在があったのか？

小学校を囲む「塚」の意味するものは？？

第5回 実物のミニ歴史資料展

東柿生小学校遺跡発掘遺物 展示公開

～発掘遺物から分かることは？～

公開日 **2月** 1・8・15・22日(毎土曜日) 柿生郷土史料館特別展示室にて